

# 職場紹介

## 【東3階病棟】



平成17年から産婦人科、小児科を中心とした女性病棟として運用していましたが、平成24年3月に泌尿器科、平成26年10月に皮膚腫瘍科・皮膚科が新設され、婦人科、泌尿器科、皮膚腫瘍科・皮膚科ともにがんに対する集学的治療目的の入院患者が8割を占めるがん系の病棟です。平成26年度の年間手術件数は525件、化学療法529件、放射線治療1402件、放射線治療のうち子宮頸がんに対する腔内照射が84件と、がんに対する治療件数の増加がみられています。また地域がん診療連携拠点病院として、患者様やご家族が安心して治療・療養ができるように地域の紹介元の病院や、専門的な治療や療養が継続できる紹介先の病院との連携を図っています。

当院は循環器、がん、脳卒中を専門としているため、心疾患、脳卒中、糖尿病等の既往症のある患者様が多く、他科とも連携し抗凝固薬や血糖コントロールをしながら治療を行っているのが特徴です。

小児科は川崎病の治療や、心疾患をもつ患児の急性疾患罹患時の治療、循環器薬のコントロール目的の入院が中心で、産科は分娩件数の減少に伴い26年度内で休診となっています。

看護の特徴として、外来、がん相談員や臨床心理士と連携を図り、入院前から治療に対する不安の緩和や意思決定支援、前立腺全摘を行う患者様には術後の尿もれ対策として、骨盤底筋運動の指導や日常生活の変化に対する支援を行っています。また手術後や放射線治療患者様にはリンパ浮腫に対するケアと予防について入院時から指導を行い、リンパ浮腫外来に繋いでいます。

(文責：東3階病棟 看護師長 米森 初枝)

表1. 手術及び主な治療件数・検査件数の推移(平成26年4月～平成27年3月)

	分娩 (帝王切開)	手術 (婦人科/泌尿器科 /皮膚腫瘍科・ 皮膚科)	放射線治療 (腔内照射) H25年10月～ 26年3月は 工事のため休止	化学療法 (婦人科/泌尿器科 /皮膚腫瘍科・ 皮膚科)	前立腺 生検
平成24年度	31 (13)	415	1225	595	96
平成25年度	33 (8)	405 (268/136)	4月～9月 747 4月～9月 (43)	605 (377/151/16)	101
平成26年度	28 (6)	525 (309/102/114)	1402 (84)	529 (413/115/1)	100



脳神経外科  
比嘉 那優大

# 新任紹介

11月より脳神経外科医師として勤務しています。鹿児島医療センターで勤務するのは初めてになります。以前から働いてみたい病院の一つであったので嬉しく思います。脳・血管内科の先生方と協力して、脳卒中の診療にあたり地域の人々のために貢献できるように頑張りたいと思います。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、宜しく御願います。

■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター** (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号  
代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・鷲頭・吉留・山口・櫻木・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・杉本

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。



連携室だより

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター(循環器・脳卒中・がん専門施設)

2015.11 vol.115

## 診療科紹介 — 外科・消化器外科 —

外科部長 菰方 輝夫



### 【診療体制】

3名の常勤外科医(菰方輝夫、海江田衛医長、安田洋医師)、1名の非常勤外科医(宮崎俊明医師)、卒後臨床研修医1-2名により、外科・消化器外科領域の患者様に、24時間365日対応致します。外来日は火、木、待機手術日は月、水、金。2014年度のNational Clinical Database(NCD)登録の一般・消化器外科手術症例は383例(完全腹腔鏡下胃・大腸・肝・膵・脾手術など高難度内視鏡手術66例、肝葉切除、膵頭十二指腸切除など高難度肝胆膵手術24例)、直近1年(2014年11月～2015年10月)では430例でした。

### 【診療範囲】

#### 地域がん診療連携拠点病院として

がんの外科治療に関わる資格と施設認定として、日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医を取得しております。がんの外科治療に関わる施設認定として、日本外科学会修練施設、日本消化器外科学会修練施設を取得しております。

消化器がんに対して、各臓器のがん診療ガイドラインを遵守し、消化器内科、腫瘍内科、放射線科、臨床病理、緩和ケアチーム、口腔ケアチーム、NST、ICT、外来化学療法室、がん支援相談室、関連する各認定看護師、臨床心理士と密な連携のもと、全人的に患者様をサポート致します。消化器がん治療は、毎週火曜日午後5時15分からの合同カンファレンスでの症例検討会、カンサーボードを通して、外科治療、化学療法、放射線療法を背景に各専門医の忌憚のない意見交換により決定します。治療の主軸である手術は、安全性、根治性を第1としながら、がんの進行度、開腹手術歴、患者様の要望も踏まえ、可能な限り、機能温存、整容性を追求し、腹腔鏡下手術を積極的に導入しています。腹腔鏡下手術は、OLYMPUS社製のVISERA ELITE 2D/3D内視鏡手術システムを用いて、食道を除く保険収載されたすべての胃・結腸・直腸・肝・膵・脾手術をカバーしております。消化管がんは、内視鏡的切除(消化器内科)、腹腔鏡下・開腹・拡大手術(外科)、化学療法(消化器内科または腫瘍内科)、放射線療法(放射線科)、緩和ケア(緩和ケアチーム)を院内で横断的に対応しております。肝胆膵がんは、難治性で難易度の高い手術を要する場合も多いですが、肝がんに対する肝切除、膵頭部領域がん(中下部胆管癌、膵頭部癌、乳頭部癌、十二指腸癌)に対する膵頭十二指腸切除、低悪性度膵腫瘍に対するテラーメイド型膵切除、上部胆管、肝門部胆管がんに対する肝外胆管切除を伴う肝葉切除、内科的治療抵抗性の慢性膵炎に対する切除・内瘻術、進行胆嚢癌などに対する肝膵同時切除、血行再建を伴う肝胆膵の手術も可能です。

#### 一般外科・急性腹症

一般外科、急性腹症にも広く対応致します。急性虫垂炎、鼠径・大腿・閉鎖孔ヘルニア、腹壁癒着ヘルニア、腸管癒着障害、胆石症などに対しては、鏡視下手術を基本戦略とします。急性胆嚢・胆管炎、内科的治療抵抗性の慢性膵炎、胃十二指腸潰瘍穿孔、大腸穿孔、虚血性腸疾患、上腸間膜動静脈閉塞等々には緊急・早期手術で迅速・的確に対応いたします。

#### 循環器・脳卒中の急性期基幹病院として

抗血小板療法、抗凝固療法を施行中であつたり、心臓血管疾患を有していたり、脳血管障害を有する患者様の場合、対象疾患の外科治療のリスクに加えて、出血、塞栓症、心血管病変・脳血管障害の増悪など、しばしば致命的な合併症を惹起することがあります。当院では、心疾患、脳血管疾患の対応に熟達した麻酔科医の全身麻酔管理、周術期呼吸循環管理サポートの元、循環器、脳血管医師との横断的、迅速かつ密な連携で、心臓血管、脳血管障害を有する患者様に対する外科治療の安全性が一段と向上します。

鹿児島医療センター外科・消化器外科グループは、常に真摯に、情熱をもって、科学的根拠と先進医療の癒合を図り、緊急・待機手術を問わず、鹿児島島の外科・消化器外科医療に貢献し、次世代の外科医の育成に努めて参ります。ご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 褥瘡予防勉強会を行いました

褥瘡は患者に苦痛を与えるだけでなく、原疾患の治療に影響を及ぼし、入院期間の延長にも繋がります。褥瘡予防がよりの確にできるよう10月6日（火）、褥瘡予防対策委員会と㈱ケーブおよび㈱カクイックスウィングの共催で、体位保持やポジショニングの勉強会を行いました。この勉強会では患者体験をすることで、普段の援助では患者の筋緊張を増強させてしまっている事を実感出来ました。また介助グローブの活用方法についてもレクチャーがあり、介助グローブを使用することで背抜き、圧抜きを無理なく行うことができ、安定したポジショニングを行えると実感できました。介助グローブは患者とベッドの間にスムーズに介助者の腕を挿入する事ができる為、患者の不快感の軽減にも繋がり、現在一部の病棟に導入しています。高齢化が進み複数の疾患をもつ患者が増加している現在、褥瘡の発生リスクは高まっています。現有の2種類の体圧分散マットや、患者の体位に合わせて折り曲げて使用できるクッション等の有効活用で適切な体位保持やポジショニングを行い、患者の苦痛の軽減と援助者の負担を少なくしていく必要があります。

その為にも私達褥瘡予防対策委員が積極的に看護実践と評価を行い、全体へ普及させていきたいと思えます。

（文責：褥瘡予防対策委員会 副看護師長 前田 麻美）



## 平成27年度 鹿児島医療センター附属看護学校 「公開講座」を終えて

平成27年10月10日（土）に鹿児島市岩崎地区、小野地区の方を対象に「認知症を予防しよう」というテーマで、学校教員による公開講座を行いました。天気にも恵まれ、22名の地域の方々に参加していただきました。

今回の公開講座では、「健康チェック」「認知症予防ミニ講義」「認知症予防のコグニサイズ」「手作り防災グッズの展示」を行いました。健康チェックでは血圧や骨密度測定などを行い、防災グッズでは桜島が大噴火することを想定して、身近なもので作れる防災グッズ（ビニール袋で作るカップ、ペーパータオルやキッチンペーパーで作るマスク、新聞紙のスリッパ）を展示しました。参加者と一緒に新聞紙でスリッパを作成したところ、「これは便利だね」「今度町内会でも教えます」など好評でした。

認知症に関する講義では症状、認知症予防策について説明しました。講義後はコグニサイズ（頭を使いながら運動する認知症予防プログラム）を行いました。例えば足踏みと手を同時に動かしながら1～50まで順に数えたり、しりとりをしたり、童謡の「あんたがたどこさ」を歌いながら



手を叩いたり、膝を叩いたりしました。複雑になると間違いもありましたが、教員ともども楽しみながら行うことができました。参加者からも「楽しかった」「今日から頭の体操を始め、元気で長生きしたい」「コグニサイズで頭を使いながら運動したい」というご意見をいただきました。

地域貢献を目的としたこの公開講座はスタートして10年になりますが、地域の方々、教員との交流の場として、また毎年の恒例行事として楽しみにしていられる方が多いようです。今回は初めての方が8名参加されました。今後も地域貢献の場となるように内容を工夫し、少しでも多くの方々に参加していただけるように努めていきたいと思っています。

（文責：看護学校教員 上野 敏幸）



## 第2回 平成27年度 鹿児島医療センター附属看護学校 オープンキャンパスを終えて

9月26日、高校生118名、社会人4名、保護者24名、高校教諭2名の計148名の参加のもと、第2回オープンキャンパスが開催されました。

私たちは、今回のオープンキャンパスで本校の特徴や素晴らしさを知っていただき、高校卒業後の進路として本校を選択していただけることを目的に、入学してから半年の知識と体験で企画しました。

今回は教員の先生方による模擬授業と1年生による手洗いや体位変換など5つの技術体験、学校生活の紹介や交流会を企画しました。また、オープニングセレモニーとして合唱も取り入れました。準備をしていく中で、「どうすると本校に興味を持ってもらえるか」「本校の魅力を伝えることができるか」等担当ごとに考え、教員の先生方ともたくさん話し合いました。

私たち1年生が初めて担当する学校行事であったため、分からないことばかりでした。準備は6月から行っていましたが、夏季休業、シルバーウィークをはさみ、時間が取れない中で準備を進めていきました。一人ひとりが複数の役割を持っていたため、連携がうまくいかずに戸惑うこともありましたが、参加していただいた方々に楽しんでいただけるように頑張りました。

私たち1年生からのメッセージとして、りんごの木に見立てた用紙に高校生へ向けて一人ひとりメッセージを書きました。たくさんの方々に見ていただくことで学校生活の様子が少しは伝わったと思います。また技術体験や交流会も楽しんでいただけたようでした。

私は、このオープンキャンパスを通して、自分の役割を果たすこと、円滑に進めるために他の学生とコミュニケーションをとり、情報を共有していくことの大事さを学びました。このオープンキャンパスに参加していただいた方々のおかげで、私たちも良いオープンキャンパスができました。ありがとうございました。1年生全体としての団結力も深まり、大きく成長できたと思います。

これからも1年生が目標に掲げた「日進月歩」のように日々成長し続けたいです。

（文責：24回生オープンキャンパスリーダー 下島 穂香）

